会費納入先
年会費　2,000円
①郵便振替口座番号
00170－６－255304
②さくら銀行東日本橋支店
普通預金　6341774
天草高校同窓会
関東支部事務局

# あまたか News 関東

熊本県立天草高等学校
同窓会　関東支部
発　行
発行人　西　功
編集人　編集委員会
印刷所　株式会社 光洋
事務局　洲崎千尋
〒245 横浜市戸塚区名瀬町783－36
TEL 045－811－2566

## 会報発刊のご挨拶

会長　西　功

母校同窓会関東支部が創設されて十年を迎えようとしています。名簿もなく、個人的な交流や不確かな消息や風聞をたよりに、第一回総会が長島敏校長先生や、故鶴田前同窓会長に臨席いただいて発足しました。

昨今、東京でも各地の県人会や、学校の同窓会が開かれておりますが、当時は世の中全体が高度経済成長の波に浮かれ、「心」より「物、金」の方に関心が強く、利己的で物質的繁栄に心を奪われた時代でありました。不況を喜ぶ訳ではありませんが、バブル崩壊を契機として人間が本来最も大切にしなければならない「やさしい心」、「自然の大切さ」が呼び戻されつつあることは喜ばしいことだと思っております。

自分を育ててくれた故郷や母校を懐かしむのは、自然の理と言えるのではないでしょうか。わが関東支部も歴代の幹事や会員の皆様の協力によって、年々総会への参加者も増加しつつありますが、さらに発展させる施策はないものかと日々検討しております。

その第一号として機関誌の発行を決定いたしました。発行を継続するためには、スタッフの確保や経済的な問題等もありますが、「面白く、興味深い記事」を掲載することが最大の課題であります。会員の皆様の近況、仕事や趣味子供や孫の自慢話など身近な話題を遠慮なくお寄せいただければ、発行が待たれるような楽しい会報をお届けできることと思います。

「高校の同窓会」の意味を問うた友人がおりました。改まって聞かれると一寸適当な返答に窮しますが、「伏流水」のようなものだと答えました。日本の名水百選の一つ、阿蘇の「白山」は一〇〇年の昔に阿蘇山に降った雨や雪が地中に深く潜り、一〇〇年の歳月を経て地上に湧きいでて名水として人の命の源となります。

天草は四方を海に囲まれています。天草高校の校歌には「鞺鞳（とうとう）として岸を打つ、天草灘の……」という一節がありますが、万物を生み出した海のようなものかもしれません。人生で最も柔軟な頭脳と若き活力と感性に溢れた高校時代の教育や生活、そこでの出合いは、その人の人生の基礎を形成し、将来の方向性を決定づけるような時であったと思います。

平成八年、天草高校は創立一〇〇周年を迎えることになります。現校長先生をはじめ在郷の友人達の手によって記念行事が計画されているようですが、我々在京の同窓生も喜んで積極的に参加し、長き伝統と歴史をお祝いしたいものです。

（天高二回卒）

## 創刊を祝う

天草高校同窓会
会長　堀田善久

東京を含む関東一円に天草高校の同窓生がどのくらい居住しておられるでしょうか。天中、高女を含め、おそらく千を越すと思われます。誰しも故郷を思い、とりわけ少年時代、青春時代の思い出を共有する人達に対して懐かしさを覚えない人はありますまい。

故郷を後にして生きて来た人生は百人百様、住む世界を異にし、すれ違いすら無い場合も多く、それぞれに遠ざかり行く故郷の思い出に哀惜の情を抱かれているに違いありません。たまたま天草をおとづれ、思いもかけない、よそよそしい表情に出合い、帰郷の期待を一遍に打ち砕かれた経験をされた方もあるかと思います。同窓会はそのような人々のお互いの傷をなめ合う場であり、又そのような傷を未然に防ぐ場ともなります。

おれの兄貴があすこで何をやっている、訪ねてみてくれ、この些細な会話で故郷との絆は確実に結ばれます。天草の人間はあなたの顔をたまたま見知らなかっただけなのですから。

千余の同窓生が年一回とは言え、一堂に会することは至難なことです。欠かせないのはお互いの消息を知らせ合う手段です。今度、会報を創刊されることによって同窓生の絆は一段と強まることでしょう。

## 会報発刊に当り 天高の思い出

郷友会
元会長　井上正規

私は昭和八年卒になっていますが、実は昭和七年に四年から陸軍士官学校に入学したので天高には二年間学びました。同窓には明徳寺の安田祖龍和尚がいました。和尚は一年留年で私達と一緒になりました。私は中学入校は熊本の女子師範附属小学校から済々黌（せいせいこう）に入校しましたが、不幸にも助膜炎を患い転地療養で天中に転校しました。天草は気候が良いので一年で病気も良くなりました。天中はもとも鹿中、八代中と共に済々黌の分黌でした。私は当時亀川の自宅から自転車で通学しました。一年先輩に園田直さん一年後輩に田代由紀男さんが居ました。ほんとうに天草は西海の別天地と思います。この度、天高同窓会関東支部の機関誌を発行とのこと、心からお喜び申し上げます。

なにはともあれ関東の皆様が同窓会に帰るべき故郷を見出し明日への活力の源にして頂くことを一番嬉しく思います。そして我ら母校が済々黌に次ぐ熊本で二番目の百周年を祝う誇りを味合おうではありませんか。

（天中二十八回卒）

## 関東支部の歩み

◎歴代会長
初代　村上義行氏（高一回）
二代　西　功　氏（高二回）
三代　泉　道男氏（高三回）
四代　西　功　氏

◎定期総会
昭和五十八年第一回開催。
今年は第十一回。

◎同窓会関東支部規約
昭和六十二年十一月制定。
平成三年十月一部改正。
〃　四年十月一部改正。

◎ゴルフ部
平成四年に発足、部員約三十名。コンペ三回開催

### 同窓会の〝夢〟

なんとか実現したいものだが皆さん如何があろうか。
①ウニ、こっぱ餅、むぎ味噌、その他…、天草の物産がいつでも原価で提供できる仕組み。
②後輩が仕事その他、いつでも相談に乗れる体制。
③受験生のホームステイ制度。
④天草に気軽に泊まれる宿泊施設の建設。

副会長　廣田和史

⑤甲子園で校歌を聞きたい。
平成不況も底打ち、回復宣言が出されたが、仕事、暮らしは依然として厳しい。
久し振りに会って、天草弁も懐かしいが、大いに夢を語り、そして実現を図る。これが同窓会活動ではないだろうか……、そこで、振返って見れば、まだまだ幹事の努力が足りないと思う。

### これからは……、

①より多くの会員が参加出来る体制と若い人にも魅力のある組織作り。
②心の安らぎを覚える、砂漠のオアシス的存在。
③赤字体質の改善と財政基盤の確立。
……を目指したく、各位の絶大なるご支援をお願いします。

◆　◆　◆

### 第四回コンペのお知らせ

十一月二十九日（火）
金之台カントリー！
参加者募集中！
申込は
〇二九八－七四－三四〇〇
（廣田宅）

## 第十一回　定期総会のご案内

天草高等学校　同窓会関東支部

一、日　時　平成六年十一月十八日（金）
受付　十七時
二、場　所　ホテルグランドパレス
東京都千代田区飯田橋一－一－一
電話　〇三－三二六四－一一一一
最寄駅　地下鉄　九段下
JR線　飯田橋下車各五分位
三、会　費　男　八、〇〇〇円
女　七、〇〇〇円

# 会報創刊号の発刊を祝す

天草高校校長　松岡洋平

関東支部が発足以来十余年を経たのは偏に会員相互の結束の強さ、協調の精神、母校への愛校心の賜物だと思います。この度更に会員の交流、融和、親睦を深める目的で会報を創刊される運びとなりましたことを心からお慶び申し上げます。会報の創刊は文字通り画期的、記念すべきもので、他の各支部に与える波及効果は測り知れない程大きいと確信いたします。

現代日本は高度情報社会と言えます。その情報源の中心地に位置する関東支部がその活動を文字や記録として文化発信される会報は、母校に在学する後輩や、天草の住民にとっては知的刺戟となり、現代を生きる指標となるでありましょう。会報の今後の内容充実と発展を期待いたします。

さて、着任早々創立百周年記念事業の準備、企画に係わっていますが、事業も漸く軌道に乗って着々と進捗しています。直接掌に当るのは天草在住の同窓生が中心となりますが、事が百周年記念ともなると全国的規模のコンセプトで推進していかねばならないのは当然でございます。

幸いに、昨年は熊本市、今年に入って福岡地区の支部設立総会が行われました。天草地区でも既に六地区で支部が発足しています。いずれの支部の発足も事業事務局設立以来の宿題でありましたので、当局の喜びも格別なものであります。斯くして同窓生相互の連携と交流が盛んになるにつれて、百周年記念事業への理解と協力が深くなり、事業の大きな推進力となると思います。

従前から関東、中京、関西の各支部間の部分的な交流や交歓は行われていたと思いますが、中京、関西の両支部も関東支部に倣って会報を発刊するようになれば、またこの三大支部の結びが強くなり交流の密度が濃くなるでありましょう。延いては三大支部と九州地区、熊本県、天草地区との心理的距離がもっと小さくなるでありましょう。そして今以上に同窓生間の文化交流が容易に、迅速になっていけば、融和と親睦が深まり、百周年を理想的な形で祝ぐことができるのではないかと夢想しています。諸々の事を勘案すると、今回の関東支部会報の創刊は天高同窓会の知的活動の先駆をなす意義深い事業でございます。

最後に関東支部の皆様が百周年記念事業と母校に対するご協力とご厚情を賜わりますよう幾重にもお願い申し上げます。

# 天中・天高の思い出

元教諭　清田徳義

この度、天草高校同窓会関東支部の創刊号の発刊の運びとなり、心から祝意を表する次第である。

実感として、会長を初め、役員各位の熱意努力により、遂にここまでといった、かねての期待感が満たされ、嬉しく思っている。

さて、私と本校との関わりは、四十有余年前に溯る。昭和二十一年、敗戦で、中国から復員し、原職の当時の東京帝国大学助手を退官し、縁あって、時の天草中学校への赴任に始まる。

時恰も、駐留軍による敗戦に絡む学制改革があり、由緒ある伝統に輝く、天草中学校は、昭和二十三年四月、天草高等学校と改称し、新生の息吹きの歴史の始まりとなる。

思えば、国破れて、物心の荒廃その柱に在る世相で、生徒達は、名門校の生徒らしく、凜々しく、毅然として、次代を背負う気概が窺われた。

大学の教室から、未知の教育現場に鞍替えをした私であったが、惑いなく、寧ろ心弾む思いで、心の切換えが出来た。本校で、足かけ六年の在職になるが、この間、教科は物理、化学を、学級担任、進学指導等の分掌を担当し、教員としての資質向上の機会を与えて頂いた。

私にとって、天高は、私の人生行路の転機の場であり、教育者としての人生のスタートの原点であった。忘れ難い思い出である。

顧みれば、三十代の後半、天草五十三ヶ町村の俊秀、活気に満ちた若者達との出遭いは、願ってもない幸せな巡り合いであった。

当時の諸君は今や、人生の幾多の障害を克服し、各自の天分、個性を活かし、夫々の人生に、花開き、実結びである。

まさに、人生の勝利者であり、心から祝福したい。歓びこれに優るものなしである。

天草高等学校永久に栄えあれと祈る。

# 天草に生きる

靖国神社宮司　大野俊康

私が、熊本県立天草中学校に入学したのは昭和十年でした。

よき師よき友に恵まれ、楽しい天中生活を終えたのが昭和十五年で、第三十回卒業。

時はまさに皇紀二千六百年！　全てに歯切れのよいのが自慢なのです。

その後、浪人一年、伊勢の大学予科を了え学部に進むと同時に学徒出陣、兵役一年十ヶ月。復員後、九州大学に転校。在学中の昭和二十二年二月父が急逝。俄か神主の資格をとり、同年九月、本渡諏訪神社宮司となり、亀川・枦宇土の二ヶ村を兼務しました。よき人々に囲まれ、懸命に奉仕を続けているうち、〝天草に生れ、天草に育ち、天草に生きる〟喜びが、「男の五惚れ」の信条となりました。

妻に惚れ仕事にほれて処に惚れ、師友にほれる者は仕合せ

歴代の社家に生れ育ったので、本渡を離れることなど夢想だにしなかったのに、突然、平成四年四月、靖国神社宮司に就任することになりました。

十ヶ月考えぬいた後の決断でした。身に過ぎた重任とはいえ、戦争に生き残った者として、英霊にお仕えすることは最高の栄誉であり、責務であり、神主冥利に余りあるものと、微力を捧げております。

当初は随分勝手が違い苦労でしたが、案外早く、東京の新生活に慣れる事ができました。それは、新しい重責を立派に務めねばならぬという責任感と、日々、ふるさと天草を偲ぶ心――その二つのお蔭と信じています。

上京と同時に、職舎の神棚に故郷の奉仕神社と祖霊を奉斎。朝夕に、それぞれのお姿を瞼にえがきつつ遙拝していると故郷との一体感に包まれ、大きな安らぎを覚えるのです。

また社務所の宮司室の正面に油絵「天草遠望」（御船町出身・文化功労者の井手宣道作・四号）を掲げ、職務の合間に眺めていると、不思議に大きな活力が湧いてくるのです。

さらに、天草の方々が次々にお訪ね戴き、心おきなく天草弁で語り合える喜びです。

まさに〝天草に生きる〟私の日々なのです。

（天中二十五回生）

# ★天草★ 湧き出づる泉

岩崎八男

八代や益城など熊本本土の人達を多く知るようになってから一つの発見をした。天草ではモノ心つくようになると多くの人が知らず知らずのうちに、ここが自分の一生を過ごす場所ではない、と思うようになる。成人したらどこか天草以外のところで人生を開拓して行くのが当然と考えている。ところが熊本市はもちろん、郡部でも本土に生まれた人達にはそんな考え方が出てこないのが普通らしい。

これは私にとっては驚きであり、天草に生まれた自身の本質を知る上で大発見であった。何故そうなるかは、天草の山あいの田んぼと八代あたりの広々とした農村風景を見れば一目瞭然である。天草に

次頁へつづく


財団法人東京天草育英会
理事長　赤城清　天中三十回生（島子）
〒一〇四　東京都中央区日本橋箱崎町一六の一一の二〇四
TEL　〇三―三六六八―一九〇一

タマル冶金株式会社
代表取締役　前田裕恭　四回生（姫戸）
〒二八一　千葉市三角町一一八
TEL　〇四七二―五九―五〇四八

医療法人　五陽会
理事長・医学博士　五島一吉　四回生（本渡）
五島耳鼻咽喉科医院
〒一九四　町田市玉川学園二の八の二三
TEL　〇四二七―二五―八七一二

有限会社鈴木鐵工所
東京営業所長　江崎政継　五回生（志柿）
東京営業所　〒二〇二　東京都保谷市柳沢五の一の一七
TEL　〇四二四―六四―六四六一
本社工場　〒三九〇　松本市大字惣社五四三
TEL　〇二六三―三二―三八五五

ラクールグループ
ラクールクロスサービス株式会社
旅行取扱主任　西田九仁夫　六回生（都呂々）
〒一二三　東京都足立区鹿浜一の九の一四
TEL〇三―三八九九―八五二五
FAX〇三―三八九九―一一〇九

平成６年10月１日発行

創刊号３ページ　「欠」

平成６年10月１日発行

創刊号４ページ　「欠」

七回生（大矢野）
山口邦博
横須賀市追浜栄町三―七五
TEL ○四六八―六六―三三七〇

七回生（本渡）
山添ナオミ　旧姓 辻
東京都世田谷区等々力二―七―五
TEL ○三―三七〇二―九三八七

七回生（本渡）
吉田建二
東京都保谷市富士町三―九―四
TEL ○四二四―六七―四三〇〇

七回生（本渡）
吉田稔
千葉市美浜区磯辺五―七―四―三〇一
TEL ○四三―二七七―六六七九

八回生（志柿）
長島明則
東京都板橋区蓮沼町四の四
TEL ○三―三九六〇―〇〇七三

八回生（高浜）
宮口泰
東京都田木曽町二五〇―ティイ二―三〇四
TEL ○四二七―九一―七五一三

九回生（本渡）
高木繁
東京都練馬区春日町二の一三の一三
TEL ○三―三九九九―〇一一〇

九回生（都呂々）
松崎武久
いわき市常磐上湯長谷町五反田三一〇
TEL ○二四六―四三―六九〇八

九回生（新和）
松田修身
大宮市大谷二四〇の二四
TEL ○四八―六八五―二一〇三

十二回生（本渡）
山田清
千葉市美浜区幸町一の三の一の三〇六
TEL ○三―三二四七―一三四七

十三回生（本渡）
板垣壽明
東京都世田谷区深沢三の二九の五
TEL ○三―三七〇三―七九九二

十三回生（本渡）
宮地陽子　旧姓 影山
東京都中野区五の五三の九
TEL ○三―三四八四―八一六六

十三回生（本渡）
門東政幸
東京都板橋区上板橋三の一四の一一
TEL ○三―三九三七―二七三四

十六回生（手野）
井上雄介
東京都港区南青山四の三の七
TEL ○三―三四〇八―四五五九

十六回生（栖本）
大塚公男
横浜市緑区鴨志田五五七の二三
TEL ○四五―九六二―一八五二

十七回生（本渡）
山下勝市
船橋市本中山三の二五の一の四〇四
TEL ○四七三―三二―五四〇四

十八回生（本渡）
見咲えつ子　旧姓 星野
大宮市堀の内町一―六〇六
グランドシティS―一〇一
TEL ○四八―六四九―七二四八

十九回生（五和）
荒木統司
茨城県北相馬郡利根町大字布川四五四の二四一
TEL ○二九七―六八―三九六四

十九回生（五和）
大仁田保夫
千葉県印旛郡印西町木下東四の二〇の五
TEL ○四七六―四二―七三二七

二十一回生（高浜）
川原照文
千葉市美浜区稲毛海岸四の九の一
TEL ○四三―二四四―〇二三四

旭硝子㈱セラミックス部
イソライト工業㈱　代理店
和光窯業　株式会社
WAKO YOGYO　CO.,LTD
〒153 東京都目黒区東山１丁目22番３号
電　話（東京）03－3719－5255（代表）
FAX（東京）03－3793－0931
営業種目
(1)各種煉瓦、耐火材、炉材の販売
赤煉瓦、化粧煉瓦、断熱煉瓦、耐火煉瓦、不定形耐火物（キャスター、プラスト）、アルミナセメント、耐火モルタル、セラミックファイバー、カオウール、ニューセラミックス製品、金属溶解用ルツボ、誘導炉用ラミング材
(2)各種工業炉、焼却炉、設計及び築炉施工
建設業者許可
東京都知事（般－５）第40430号
平成５年12月10日（初年度　昭和50年）
代表取締役　森下一人　２回卒　五和町出身
取　締　役　花井英夫　11回卒　五和町出身
営業リーダー　古川芳則　20回卒　五和町出身

# 島原の乱後の天草と鈴木重成公

鈴木神社宮司　田口孝雄

となりの国の警句に、《最初に井戸を掘った人のことを思え》というのがある。水の有難さ先人の英知と労苦、その恩恵はまことに測り知れない。……しかし我々は〝いま〟をあわただしく生きて、「最初に井戸を掘った人のこと」を胸中に浮かべること、いたって少ない。

天草に育った者がひとしく飲んだ水とはどんな水であったのか、天草という名の井戸を先人はどんな思いで掘ったのか。

◇　◇

わがふるさとの海山は美しく、人情も又うるわしいが、悲しいかな、耕地が少なく地味はやせている。江戸時代初期の生産高は二万石がせいぜいだったと見られている。

さてキリシタン大名小西行長が関ヶ原で滅びたあと、天草は唐津藩主、寺沢広高の飛地領となった。富岡城を築き唐津から番代を派遣した。寺沢は検地して天草をなんと四万二千石と評価した。米三万七千石に桑、塩、茶、網運上など小物成を米に換算した五千石を加えた数字である。この無謀な「過大評価」について司馬遼太郎氏は、島原の松倉重政の場合と同じく「幕府に対していいかっこうをしたさのあまり」の「凶暴としか言いようのない愚かさ」だと断じている。

いかに苛斂誅求がめずらしくない時代とはいえ、天草と島原とはことにひどかったのである。そこにはそれぞれの領主の人間性が無視できないし、どちらも石高「生産高」の算出に大きな無理があったことも共通の背景として想起しておかなければならない。そして滞納者とキリシタンへの目をおおう迫害。

天草一揆は寺沢堅高が広高の後をついで五年目、寛永十四年の十月から動き始めた。島原も動いていた。実は唐津も島原も城主は江戸に参勤中であった。両者は呼応し、天草四郎を盟主に十二万余の幕府連合軍と原城で対峙したが十五年二月二十八日城は陥落、籠城三ヶ月、三万七千人が露と消えたという。

鈴木神社（本町）

乱後、松倉は所領没収の上斬罪。寺沢は天草四万二千石が没収され、九年後に自殺した。だが石高は変更されるはずもなかった。

幕府は天草に備前から山崎家治を入れて乱後の治安と城の修築とにあたらせ、三年で讃岐丸亀に転封したうえで、天草を直轄領（天領）とする。初代代官、鈴木重成公の正式就任は寛永十八年十月一日のことであった。

鈴木重成公は名のある三河武士であった。果断の人であり、また慈しみの人であった。

かつて上方代官として摂津河内の堤奉行を兼任しておられたが、多数の隠田脱税者が発覚したとき、男女全員断罪を下知してきた伏見奉行、小堀遠州のもとへ馬を飛ばし「たとえ身命を喪するとも」の覚悟で談判、ついに女囚だけは助命に持ち込んだという経歴は重成公の人となりを語って余すところがない。その後老中、松平信綱旗下の砲術奉行として原城包囲軍に加わり天草島原一揆の凄惨を目のあたりにされた重成公が天草代官となられたのだった。今日の「天草」は実にここに始まる。

鈴木代官は富岡城下に陣屋を置き、数々の天草再建策を打出してゆかれる。即ち、農村および行政組織の再編、一揆農民の慰霊、荒地の開墾、移民の導入、雑税の軽減、保健衛生対策、海浜防備、神社仏閣の復興あるいは創建をとおして民心の〝敬神崇仏〟への回帰、――これらの諸施策によって、在任十二年余（実質十三年余）の間、亡所と化した天草を立て直し、領民の暮らしを取り戻すために精根を傾けられたのであった。その仁政は実兄、鈴木重三（出家して正三）公との絶妙のコンビによって進められていった。

こうして人々の暮しは徐々に平安に向っていた。汗して掘った井戸から清水は確実に湧き出してくる、と感じられただろう。

しかし「石高」の無理を正さなければ天草の困窮は永久に解決しないのだった。石高は査定である。言ってみれば月収二十万円の家がお前のところは月収四十万円あるはずだと言われ、それに税率を掛けられているような状態――これが寺沢広高以来の天草だった。仮に税率五割なら全収入がそっくり納税額となる計算である。これこそが一揆の根っこであったはずだ。しかし代官の中から「年貢の軽減を」とは言えない。それでも塗炭の苦しみにあえぐ領民を思えば、何としても事態を打開しなければならぬ。

承応二年春、重成公は意を決して江戸へ上り、幕府に天草の「石高半減」を訴えて出られた。容易ならざることである。幕府にしてみれば、これは前例のない、みずからの威信にかかわる大事であった

（以下次号へ）

・・・・・

田口孝雄氏、昭和十七年生同三十六年天高卒（第十三回）。四十年国学院大学文学部卒業後、長崎、熊本両県立高校教諭（国語）。同五十五年から十三年間母校の教壇に立ち、平成五年春退職、鈴木神社宮司。

# 我が学年の活動状況

## 天羊会と修学旅行

森下一人

昭和六年生れの羊年ですので「天羊会」と名付けました。

関東では毎年の集りを正月十四日と決めて居りましたが、六十三才ともなりますと寒さも身にしみますので、今年からは暖い季節に変えました。

今年は七月一日、グランドパレスで開催しました。一年半ぶりでしたが、多くの方が出席してくれました。その中には、新たに二、三名の久しぶりの顔をみることが出来ました。会も盛り上がり、時のたつのも忘れた程でした。まだまだ若く、写真の通りです。

昨年十月二六日に、京都まで修学旅行をした折には、天草から三十名、大阪十名、東京十名が集り、中学以来四五年ぶりに初めてあわす顔、じっとみつめ合い、懐かしく、手をにぎり、抱き合って喜びました。あの頃のひもじかった事、辛かった事等、思い出ばかりで、あれもこれも話したかったのに時間ばかりが過ぎてしまいました。やっとのことで、私達の修学旅行が実現しました。その感激と喜びは、当時天草中学校に入学したときと同じ喜びでした。

天羊会のみなさん

次回は天高の百周年と六五才の停年祝いを兼ねて、ふるさと天草での再会を約束して別れました。たのしみです！

それまで元気でいなければ、頑張らなければ、と思った次第です。

（天高二回生）

## 天中卒業から五十年

五島浅男

暑い夏です。連日三十度を超える厚さにいささかバテ気味の昨日今日です。そこへ天草高等学校同窓会関東支部の会報への原稿依頼です。早速暑気払いに筆を執ってみました。

つい先頃、有明町の教育長をしている同級生の橋本建一君が上京、天草中学昭和十九年三月卒業の仲間で組織する「天虎会」の在京会員で一席設けました。と言っても橋本君の令息が経営する串焼きを中心のメニュー豊富な「あほうどり」という新大久保の駅近くの店にお邪魔したというのが、本当のところです。

中学卒業から今年は丁度五十年。遙けくも来つるものかなという感慨があるのは、百人そこそこの仲間のうち鬼籍に入った者が二十六人にもなるからです。しかし、集まると半世紀という時の経過も忘れて、往時にかえり話がはずみます。

「やがて図南の翼ならば、天翔けりなん五大洲……」これは校歌の六番の一節で、戦後消し去られてしまいましたが、卒業時には一応、歌詞どおり雄図に燃えたものでした。しかし、敗戦という憂き目に遭い、予期せざる大波に揉まれて、夢も空しく消えたとはいえ、今日の繁栄の世に七十路に乗るまで身を置くことができたのは、望外の幸せです。

再来年は創立百周年ということで盛大な記念祭があるとのことです。母校での記念式典には、ぜひ出席して「麗寰遠く隔てたる、ああ西海の別天地……」と、スクラムを組んで声高からかに心ゆくまで歌い上げたいと。心から首を長くして楽しみにしている今日この頃です。

## いちご会

山本忠義

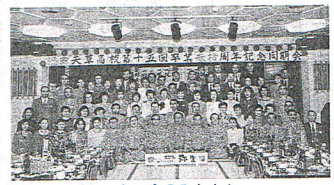
私共は高十五回生（昭和三八年卒業）です。つい先日卒業したような感じですが今年で卒業後もう三十一年にもなります。本当に月日の経つのは早いものです。年令的にも四〇代最後の年となってしまいました。

私共の学年で自慢出来る事は、何年経ってもみんな非常に仲が良いと言うことです。

各地域では年に数回の会合や集会なども行っているようですが、五年に一度は全国に在住の同期生たちに呼び掛け、各地区で担当を決めてその地域で同期会の総会とも言える全国規模の会を開催しております。

昨年がちょうど五年周期に当たり私共関東地区が担当で、約二年前から準備を始め幾度となく会合を持ち、消息のわからなかった人達も極力調べ上げ、最新版の住所録を作成し、十月に会を挙行いたしましたが天草・熊本を始め全国から約八〇名の参加があり、ホテルもほぼ貸し切り状態でご提供いただきましたので、全員一泊しまして皆それぞれに懐かしく、久々の再会に寝る間も惜しんで夜を徹して大いに語り合い、楽しく有意義な一日を過ごす事ができました。

このように私共の学年は五年に一度は集まりを企画し、普段疎遠になり、なかなか連絡の取れない人でも八方手を尽くして、一人でも多くの仲間に連絡できるよう努力いたしております。



いちご会のみなさん

特に関東地区では非常に団結心、仲間意識も強く常に連絡等も取り合える状況で、チームワークの良さは抜群ではないかと自負しております。

他の期の方々も、それぞれ努力され、素晴らしい友情を育んでいらっしゃると思いますが、私共も現在まで培ってきたこの美しい友情だけは何時までも失せる事のないよう大切に守って行きたいと思います。

そしてまた私共天高卒業生の為に先輩達が作って下さった「天草高等学校同窓会関東支部」の発展のため、微力では有りますが私共高十五回生一同大いに協力させて頂きたいと思っております。

（天高十五回生）

## 天一（テンイク）九会

荒木統司

故郷天草高校を巣立って早や二十余年の歳月が過ぎた。平成四年の第十回総会へは那須野氏の呼びかけで、第十九回同窓生十数名が参加した。

懐かしく歓談する皆の一般意見として、今までは子育て等に追われ同窓会名簿を見る機会もなく、同窓生と没交渉のまま過してきたため、東京近郊にいながら今回初めて消息を知った人が多かった。

総会終了後、同期生だけで二次会となり、盛会のうちに近日中の再会を約し、名残りを惜しみつつ別れを告げた。

そして、平成四年十二月、生駒氏が発起人となり都内代官町の植村氏のレストランで同窓会開催となった。そこには、毎日毎晩同窓会をしている久保山夫妻をはじめ、遠く仙台から駆けつけた昔日の面影はどこにもない原田氏の姿も見え、集った四十名は手をとり、肩をたたき合って深更まで語り合い、親睦を深め旧交を温めあった。

翌年の同窓会では、佐藤氏の発案で会に名称をつけることになり、

一、天草高校の第十九回卒業生であること。

二、遠く故郷を離れているため、時には天草へ一九ぞ、帰るぞと望郷の念を込めること。

三、しまいには天国へ一九ぞ、との語呂合せ。

から「天一九会」と命名された。併せて会員相互の親睦のためだけとするため、政治的、社会的、経済的、宗教的に何らの拘束も利用もしないことを申合せとし、忘年会、暑気払い、会員の転勤時等の壮行会を随時開催している状況である。百周年を目前にした母校の発展を祈り、関東支部の充実を期待するものであります。

（天高十九回）

天一九会のみなさん

## 編集ノート

昨年末同窓会幹事会の席上で西会長から会報発刊の提議があり、編集に参加することになったが、天高新聞部二年在籍のキャリアしかなく、大勢の人の助力でまとめることが出来ました。面白い紙面を心掛けたつもりですが、創刊号のため、やや硬くなりましたが、次号以降充実をめざして参ります。広報、広告委員、事務局の方々の協力と、先輩の梶原嘉辰氏の援助に感謝申し上げます。

編集委員　酒井孝幸


東京都行政書士会員
東京都都市計画局出向相談員
行政書士
田尻鉄矢　十七回生（下浦）
業務内容　許認可・官公庁提出書類作成代行
事務所　東京都板橋区徳丸六の五の一〇
TEL　〇三―三九六九―三〇一二

「輸出入通関、倉庫、運送の御用命は！」
新日本港運株式会社
代表取締役
中嶋昌加洲　十七回生（本渡）
本社　〒一〇五　港区浜松町二―六―八伸和ビル五〇一
TEL　〇三―三四三一―七二一一
FAX　〇三―三四三一―七三五〇

データ・通信設備
総合設計・販売・施行・保守
山本電設株式会社
代表取締役
山本忠義　十五回生（城河原）
〒二一一　川崎市中原区市ノ坪五四八
TEL　〇四四―四三三―八〇〇〇
FAX　〇四四―四三三―三八三八

日成技建工業株式会社
代表取締役
若松力　七回生（姫戸）
東京都杉並区下井草五の一四の一九
TEL〇三―三三九六―八二九五

山本清税理士事務所
税理士
山本清　十三回生（鬼池）
〒一〇三　東京都中央区日本橋箱崎町一六の一一の二〇四
TEL　〇三―三六六八―一九〇一
FAX　〇三―三六六八―三八八五